

令和6(2024)年10月11日

尾道福祉専門学校
校長 邑岡 志保 様

学校関係者評価委員会
委員長 平石 朗

学校関係者評価委員会報告

令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

所 属	職 名	氏 名
株式会社リクルート	ビジネスプロデューサー	加藤 茂博
社会福祉法人蓬愛会 栃木介護福祉士専門学校	教務課長	武藤 清子
尾道市福祉保健部 高齢者福祉課	課 長	柏原 美由紀
全国老人福祉施設協議会	会 長	平石 朗
尾道福祉専門学校	校 長	邑岡 志保
尾道福祉専門学校	教務主任	重岡 秀和
尾道福祉専門学校	教 員	金子 清美
尾道福祉専門学校	教 員	河田 信子

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和6(2024)年10月11日(金) 14:00~15:30

会場: 尾道福祉専門学校

3 学校関係者評価委員会

別紙のとおり

別紙

I 重点目標について

1 重点目標（1）について

学校経営の安定化と学生確保の取り組みについて、令和6年度の入学者を35名確保の目標に対して、実績としては及ばずではあったが、退学者数が減少しており、留学生の推進を含め学生数の安定的確保の努力を今後も継続していくことを今後も期待したい。

2 重点目標（2）について

学びの多様性を創ることについて学習しづらさを持っている学生への個別支援を進めていき、また、定期的に法人内事業所で授業を実施し、講師陣の再検討を行った。ICT、介護ロボット研修会や専門職との研修等の企画実施を行い、学生のみならず地域の教育研修の拠点としての活動を今後も期待したい。

3 重点目標（3）について

学生が主体的に学校に参加できるしくみとして、取り組みに関する学生へのアンケートの実施、学校内のレイアウトや掲示物等を学生と共に作ること、学生委員会や役割への意図的な関りを作ること、5S活動の周知と実施を徹底することについて働きかけを今後も望む。

II 各評価項目について

1 教育理念

コロナ禍が過ぎ、学内の活動を平常に戻していき、専門的な知識・技術の教授範囲も完全に基に戻していくことが必要である。学生数低下の中、今後は社会人や外国人を学生として増やしていくことが求められており、多様な人材を介護現場に輩出するためには、学びと評価の可視化、学びの手順の簡素化に取り組む必要がある。

2 学校運営

コンプライアンス体制、情報システム化による業務の効率化の取り組みが急がれる。特に、事務業務の効率化、学生の学びの簡素化を目的としたICT等の活用が急務である。

3 教育活動

変化する介護現場のニーズに沿った教育活動を行っていく上で、学校が介護現場や社会と繋がり、ニーズを把握し、ひとつずつバージョンアップしていくことが非常に重要となる。

4 学修成果

退学率は低下したが、2年次修了後3年次進級を選択する率は低く、モチベーション維持に向けた工夫も必要である。

5 学生支援

様々な課題を抱える学生が増加していることから、精神障害や発達障害などに対して、教員も基本的な知識を習得する等理解を深め、保護者と協力して学生の生活全般を見守り、また学生の状況に応じた個別対応がより一層求められる。関係機関との連携も深めていく技術も必要である。

6 教育環境

普段からメンテナンス、教職員・学生にも物品使用時の大切にす意識、整理・清掃等において、SDGSの取り組みの一つとして理解を深めていく必要がある。5S活動には繋がられていない。また、光熱費の値上がり等を踏まえ、今後太陽光発電等の検討が必要。同時に、豪雨等災害による断水等への対応について検討が必要である。

7 学生募集と受け入れ

少子化が進む中で高卒の新生を獲得するには限界があると認識している。とは言え、現時点で留学生なく定員充足率60%前後を維持している。そのような中で、留学生や社会人の入学生獲得にシフトすることを検討することは非常に重要。関係者や企業等との繋がりの中で検討を進める。並行して、高卒新生獲得に向け、学校の新しい取り組みや法人内外の介護現場の繋がりを強調した実践と情報発信が必要と考える。

8 財務

財務状況は下方状態である。学生数が60%維持できている今、早期に財務状況改善に向けた新たな事業展開が求められる。

9 法令等の遵守

自己評価結果をホームページで早急に公開する。法令順守については、法人も強いコンプライアンス意識を持っており、学校でも常に意識化する必要がある。

10 社会貢献・地域貢献

社会福祉法人立の養成校としての役割の一つに、地域のニーズに学校が出来ることを形にして応えることがあると考える。この2年間で地域や地域の専門職との繋がりを強化してきたため、更には研修センター的な役割を創出できるよう検討していくことが必要である。

III まとめ

地域や事業所の行事に参加する学習活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに地域へ貢献できる学生を育成する努力がみられる。開かれた学校として施設を活用した住民の諸活動を支援して、地域福祉力の育成やコミュニティの活性化に貢献できるように学校の教員や学校の活用を進めていくことに期待する。